

発行者 公益社団法人 関西吟詩文化協会

公認 華洲会 (広報紙)

発行責任者 会長 山口華雋
編集責任者 広報部長 山下心鼓



「華」 第74号 発行:令和2年2月28日

主な記事

1. 会長 年頭所感
- 2.3. 競吟大会 吟詠歌謡研修
- 4.5. 会員の広場
- 6.7. 青年部のページ・新春錬成会
8. 華洲未来塾 昇段昇格一覧

“令和2年”新春錬成会 山口会長のご挨拶 「詩を楽しむ、仲間とつながる」

令和初の華洲会新年錬成会、あけましておめでとつございませう。華洲会も今年55周年を迎えます。華洲会がちょうど55年前スタートした時に三浦華洲先生が野崎に教室を開かれましたのがその始まりです。その後教室は増え教室名は代わってまますけれども、人数はほぼ同じです。次々と新しい方が引き続き頑張って教場運営を引き継いで頂いています。華洲会が他の会に比べましたら会員減少率が低いというのは皆さんがひとり一人、会員募集活動をして頂いているお陰と感謝いたします。



詩吟というのは何が楽しいのか言いますと、やはり詩が楽しいですね。きれいな声で、上手な節回しで、というのは、コンクールで入賞という事から致しますとそうですが、やはり詩吟は詩を楽しむというのが一番大事ではないかと思ひます。

仲間と詩を楽しんでもらいたい。また、楽しい教室の運営に心がけてもらいたい。今日も教室行きたいな、今度の練習何時かなというふう待ち遠しいというような教室づくりに励んでほしい。皆さんで協力して欲しい。其の為には、言いたい事も有るでしょうが、そこは一回飲み込んでそれから言葉に出すようにして欲しい。ついつい口に出してしまう人があります。その様な話を聞いたときに、その人の心と口は違ふと思うように心がけて欲しい。教室で楽しくや

ついでに、これが一番大事ではないかと思ひます。

「人生は楽しまなければ、いつもぶつぶつ言つても同じです」楽しい人生、楽しい吟詠を心がけて欲しい。近所の人に「あんた詩吟せえへん！」と一声かけて欲しい。今日一番皆さんにお願いしたいことはこの事です。この大会に出場者をもっと増やして頂きたい。200人250人出吟希望と事務局が時間どうしようと思ひくらゐの大会にして欲しい。仲間を増やして頂きたい。

今華洲会の青年部頑張つてきています。青年部の人に話をしてるんですが、吟詠もだんだん時代の流れによつて変わつてきています。青年部は青年部でやりたいことをやって下さい。「お金は出します、口は出しません」の心意気で後押ししたい。若い人たちの考え方リズム感、音楽のリズム感を大事にしたい。NHKの紅白を見ればわかつてもらえらると思ひますが、いま演歌はほとんどありません、テンポの速い歌がほと

んどです。吟詠もリズムミカルな吟詠を目指してらつてはと思ひます。チャレンジの気持ちで華洲会のあしたを切り開いてくれるエネルギーだと思ひます。

皆さんにお願いしたいことで、一番避けて欲しいのは「俺はこれでいんだ、年だから」の気持ちを取り払い、死ぬまで楽しんでほしい。私はぎりぎりまで走り回つています。私は「マグロ」だと思ひます。泳ぎが止まれば死ぬんだと思ひます。詩吟に全手をかけて、情熱をかけています。それで、「ころっ」と行きたいなと願つています。どうぞ今年も皆さんと一緒に楽しい吟詠生活をと願つています。皆さんの絶大なご協力をお願いして私の新年のご挨拶といたします。



昨年11月4日実施の華洲会競吟大会
各部優勝者に喜びの声を頂きました

褒められて詩吟の第一歩を
新人の部



石原純子(雋詠京都支部)

語る皆様、指導の奥山先生の声や指導方法に魅了されました。歌ってみる？と言われ、大胆にも歌うと皆さんに良い声とおだてられ、華洲会に入会。それから泣きの涙で、京吟の大会に2回出て、音程は外す、歌詞は間違うで、散々の結果でした。

「舟中聞子規」を必死に1年間練習しました。今回入賞を逃したら詩吟は辞めようと思いましたが、思いがけず優勝し、舞い上がっています。先生始め詩吟教室の皆様が、ど素人の私を褒めて下さったお陰で、私の詩吟の一步が踏み出せ、感謝しています。更に精進します

出来る事を一生懸命
一部初級の部

松下恵子(多田東支部)



3年前前、田中尚叡先生の元で詩吟を習い始めました。

中学の時3年間習っていたという事もあって、新人の部で優勝しましたが、それ以来2年程、他の大会でも優勝から遠のいており、今回もまた駄目だろうかと自信を無くしていました。

でも、今自分で出来る事を一生懸命やるだけだと思いい、競吟に挑みました。それが功を奏したのか、思いがけなく優勝する事が出来自分でも驚いています。

家では、近所迷惑もあり練習することは少ないのですが、この頃は先生方の吟をイヤホンで聞き、詩情の理解や吟の歌い方を勉強しようとして努めています。

多田東支部の教室では、田中先生を初め、諸先輩方に温かく見守っていただいております。毎週の練習を楽しみにしています。

令和では、一步一步ではあります、私なりに頑張つて行きたいと思えます。

奥深さを思い知りつつ
二部初級の部



朝田由治(多田東支部)

今年の六月末まで勤務していた会社をリタイアする

ことになり、属していた詩吟の同好会も辞するかとなりましたが、先生をはじめ会の皆様から続けるように強く勧めて頂き、継続させて頂くこととしました。詩吟を始めるきっかけも、良き先輩のアドバイスからで、腹から声を出して、健康維持を図ろうとの思いからの開始だったのですが、今では詩吟の奥深さを思い知りつつあるところです。この度、先生のご指導もあり、優勝という名誉を頂戴しました

が、藤澤黄坡先生のお言葉をよく頭において修養に励みます。

より一層精進します
一部上級の部

上野敦(豊友支部)

今回、一部上級の部で優勝



すること
ができて
とても嬉
しいです。
そして、
いつも家
族のようにあたたかい川西豊友支部の政安先生をはじめ教室の先輩方にとっても感謝しています。

皆には「参加することに意義がある」と言っていました。個人的目標はできたら三位以内、悪くとも入賞をえました。三年前には第二部初級で優勝、翌年は上級の部で三位でしたのに昨年は入賞だけの無念な結果でしたので、今年は何事かを詩情豊かで好きな吟の一つ「山行」に絞り、半年前から集中して練習して来ました。田中先生からは感情を出しながらも声を伸ばすところと止めるところのメリハリをつけるようにご指導を受えました。

幸い最高の結果を得ることが出来ました。田中先生や仲間への祝福を受け、更なる向上への意欲がわいてきました。これからも切磋琢磨して詩吟の妙味を楽しみたいと思えます。

これからも精進して
準師範の部

奥山久美子(雋詠寺川支部)

この度は令和元年、新しい年の幕開けとなる記念の競吟大会で優勝をいただきありが



河田一彦(多田東支部)

私の所
属する大
阪北ロー
タリーク
ラブの詩

吟同好会は、田中尚叡先生にご指導を仰いでいます。同好会発足2年後の6年前から全



とうござい
ます。新し
時代・令和
この万葉集
からとられ

た文学的な美しい響きの元号
とともに、私も気持ちを新た
にし、詩の世界を表せる詩吟
ができるようになりたいと思
います。

今回のコンクールは「事感
」、大好きな詩なのですが、コ
ンクールではあまり挑戦した
ことがありません。「あ」の音
が多く難しく感じるので避け
ていたのですが、いつまでも
「あ」の練習から逃げていて
はいけないと思い、先生の後
押しもあつて挑戦しました。

毎回コンクールの舞台上上
がる緊張して全く思うよう
にいかないのですが、気持ち
で負けないように、
精いっぱいがんばろう！とい
う思いで舞台上立ちました。
今後、練習で積み重ねて
いつもコンクールで思えるよ
うに、今回頂いた優勝を励み
に、これからも精進していき
たいと思います。

心遣いを感謝
師範の部・総合の部
宇野麗子(勢多支部)
この度、師範の部・総合の部



で優勝さ
せて頂き、
誠にあり
がとうご
ざいました。

諸先生方や、皆様には体を
壊している私に何時も、お心
遣い頂き本当に感謝の心で一
杯です。主治医から私の片肺
は今以上良くなるが現状維持
で、詩吟は大いによろしいと
の事です。

「万里一空」目的・目標に向
かって、自分が目指す詩吟を
続けて行きたいと思っており
ます。これからもご指導、ご鞭
撻の程、よろしくお願いいた
します。ありがとうございます
した。

好奇心を持ち続けたい
和歌一般の部

日高みさ子(野崎観音支部)



思いもよ
らず優勝
というこ
とで大変

びっくりしましたが、また嬉
しく思っています。和歌は私
にとつて、とても難しく、同
じ言葉でも前詠とリフレイン
の後詠の表現が違うので、う
っかりすると詠じながら節が
混ってしまいます。また、伴

第48回 華洲会 競吟大会 (令和元年11月4日)

出吟区分	優勝		準優勝		準々優勝	
	氏名	所属支部	氏名	所属支部	氏名	所属支部
新人の部	石原純子	勢多支部	上條栄治	勢多支部	加納恵介	勢多支部
初級の部(一部)	松下恵子	多田東	宮部菜由	川西豊友	杉本佑響子	勢多支部
初級の部(二部)	朝田由治	多田東	日高みさ子	野崎観音	東山美恵	京阪植養
上級の部(一部)	上野敦	川西豊友	今井紀子	青山	福田和美	川西大和
上級の部(二部)	河田一彦	多田東	五十橋俊次	勢多支部	中村久美子	弘宣
師範代の部	川田麻衣子	勢多支部	坂根英生	川西大和	成田研一	多田東
師範の部	奥山久美子	勢多支部	吉見允利	川西北	上坂逸子	勢多支部
師範以上の部	宇野麗子	勢多支部	岸場さち子	勢多支部	山下智之	丸の内中央
決勝の部	宇野麗子	勢多支部	吉見充利	川西北	岸場さち子	勢多支部
和歌(一般)の部	日高みさ子	野崎観音	奥野君子	多田東	柏原美佐子	野崎観音
和歌(指導者)の部	今井美津子	青山	坂根英生	川西大和	岸場さち子	勢多支部
奨励賞(元年度)	嶋崎雄仁	野崎観音	竹本帆花	清和台	河野 珠	清和台
幼年で、明るく元 気に吟詠	嶋崎千夏 山本蒼衣	野崎観音 勢多支部	竹本 悠 上川大紀	清和台 清和台	河野萌香	清和台

奏に合わせることも短かった
り長くなったりと苦勞しまし
た。
大会当日は、出番が早く吟
と両方の出吟で、練習もまま
ならないままの本番でした。
それがかえって余分な力が入
らず、優勝につながったかな
との思いです。これからは健
康維持のために、好奇心を持
ち続けていきたいと思ってい
ます。

授津峡散策と吟詠歌謡研修会

企画部 金子尚恭

令和元年10月17日、台風
15号・19号の東日本大災害の
翌日、被災された方々の一日
も早い復興を願いつつ、50名
の参加者を得て高槻市のひな
びた温泉郷・授津峡で講師中
谷将鳳先生のご指導による
「吟詠歌謡研修会」を行いま
した。

宮崎東明先生も詠まれた
「授津峡吟行」の通り、曲が
りくねった細い山道を経て、
眼下にはきれいな水の流れと
奇岩でスリル満点でやがて会
場に到着。

早速中谷先生の素晴らし
いお声で授業は始まり、吟詠
歌謡の「西郷隆盛」と徳富蘇
峰作「両英雄」の江戸から明
治への日本の夜明けをリード
し重要な改革を成し遂げた二
人の人物を厚みを増して知る
ことが出来ました。漢詩だけ
でなく吟詠歌謡により、もっ
と深く理解することが出来た
様に思われます。次に吟詠歌
謡「稗搗之歌」「ひえつき哀歌」
民謡の「ひえつき節」を指導
頂き、普段何気なく唄ってい
る「ひえつき節」が悲恋の物
語だったことも解らせて頂き
ました。



楽しい吟詠タイムもアツと
いう間に過ぎ、その後食事と
懇親会でいつもの華洲会らし
く、カラオケ等別の楽しみで
盛り上がりお開きとなりました。
この様に吟詠歌謡は研修
を通じて会員相互の親睦と交
流が深まり、吟詠歌謡によっ
て詩吟の内容も一層深く理解
できたように思われます。
中谷先生、ありがとうございます
ました。先生の素晴らしい
吟詠歌謡を堪能させて頂きま
した。会員の皆様、来年も是
非ご参加下さい！！

時の人に聞いてみました

今井彩黎さん 支部を立ち上げてからめざましく活躍中です。



てきました。

質 現在の活躍の持続への心構え、又それに対して周囲に支援してほしい事はどんな事ですか？

質 目標はまだまだ高く成長していきたい私には教室の間がいます。私に出来ること、がまだあると思つて、それをつかむまで努力・挑戦したいと決心しています

質 希望は仲間と共に成長していくために種々積極的に動いて行こうと思つていきますのでよろしくご支援お願いします

質 将来どうしていききたいですか？

質 幼稚園〜大学生たちがボイストレーニングの声を出す快い気持ちを伝えて。自信をつけさせたい。

質 大阪府連二部優勝。関吟二部吟士権獲得。又吟剣等で活躍されていますが、留意されていることは？

質 府連一部では愛連三位止まり若者が多く元気よく... 二部へ挑戦してみても心の吟に圧倒されて感動しました。素読、そして頭に自分の絵を描き吟ずるようになっています。

今井彩黎さんのプロフィール

関西吟詩二部 吟士権者
大阪府連二部 吟士権者

その他吟剣の近畿地区優勝等多数の大会で優勝されています。※特に関吟の吟士権者獲得については、山口会長、奥山副会長に次いで三人目の快挙です。聴き取り 山下心鼓

詩吟と子どもたち

野崎観音支部 嶋崎樹里
七歳の娘が歴史に夢中。三十年度の青年部大会での「源氏物語」や「令和」でわいた万葉集に触発されたようです。和歌の教本を見て、奈良や平安の字を見るたび「これは、どういう意味？」、「どう歌うの？」と聞いています。図書館でも歴史の本を借りて調べては、どういう時代だとか、人物だとかを教えてください。

うになりまし。五歳の息子は、姉と舞台上立つ事が増え、少し自信がもてるようになって来たよう。色々な事に挑戦するようになってきました。

また、時々ですが、鼻歌で詩吟をしたり、自分の言葉で詩吟調にしたりと遊んでいます。それぞれが違った刺激を受けて、楽しんでくれています。二人がこれからも楽しんでくれるよう、自分も頑張っています。

「お帰りなさい

「ようこそ華洲会へ」
川西北支部 中村 尚瑛
葉桜の美しいその日、約三十二年ぶりという華洲会にその人は帰って来られました。縁あって私共の教室に見学に来られたその日に、地の利の良さや教室の雰囲気を入り込んでいただけたのか再入会を決めて下さった。

「本当に久し振りなので声が出るかどうか・・・」と言いつつながら吟じられた「爾靈山」、私は長いブランクを感じさせない吟詠に大きな衝撃を受けました。教室で楽しむだけではないと言われていたのを教室の皆さんで無理矢理、半ば強制的に「大会に出てみては」

と勧め、出場して頂いた関吟の大会では、準師範の部で決勝、全国へと駒を進められたのです。教職の仕事を全うされ、やっと手に入れた自由の時間をこれからは私共と一緒に大いに楽しんで頂きたいと願っています。

素晴らしい吟詠と共に明るく親しみやすいお人柄は、もうすっかり私共の支部になくてはならない人となられました。吟歴の古い先生方には懐かしう、三十数年の歳月があつと間に飛び去って行つたのではないのでしょうか。

偶感「詩吟との邂逅」

川西大和支部 幸 盛正
間もなく七十八回目の春秋を迎え、今まさに人生の最終章を走っている。競馬に例えれば第四コーナーを回り最後の直線を懸命にゴールに向かっている。

古希を区切りに宮仕えの柵から解放され、ふとしたことから詩吟の世界に足を踏み入れることと相成った。当初戸惑いながら軽い気持ちで門を叩いたつもりであったが、師匠の叱咤激励、薫陶を受けながら志向が膨らみ、今は真摯に修行と向き合っている日々である。

これまでとは全く異質の世界で、新たな人生観に浸っている己を感じながら詩吟との接点が遠く古にあったことを思い起こす。

高校卒業の送別の饞に教頭先生が「元二を送る」を吟じてくれた。その朗々と詠い上げる迫力と旋律に感銘し、爾後消えることなくずっと胸中に残っていたことを。

今六十年の時を経て邂逅を思う不思議な「縁」を禁じ得ない。

残された時間は少ないが、もう一打ち鞭を入れて最終章を走ってみようと思う。

十より帰る元の基の一
川西豊友支部 瀬下 武士

私、詩吟の教室に連い始めて早や十二年 教室の皆様と楽しく勤めています。阪神大震災の年に退職した二年間職もなくアルバイトで過ごした。お陰様で若い時から茶華道を習ってまして、免状を取得しています。

震災後は生活が一変しお稽古事は縮小の一途。利休百選に「お稽古とは一より習い十を知る十より帰る元の基の一」詩吟も演歌も同様大きい声で繰り返し吟詩をうたう。これが私の健康法。

自治会、老人会、社協の集まりで自分を磨くとよいですね！

夏期錬成会実施

京阪樟葉支部 藤原 亮晟
会員間の親睦と吟力向上の為、今年も錬成会（発表会を

兼ねる）を令和元年九月十五（日）「楽寿荘」にて、二十一名の参加を頂き開催しました。錬成会は年に一回この時期に、会員以外の同好会の皆さんの参加も得て実施しました。将来の吟友（吟のファン）拡大の為、また今後の会員増を兼ねての大会です。

参加された皆さんは、和氣あいあいと楽しく吟詠を堪能して頂きました（全員が吟詠披露をされました。教室での吟と違って、一段と声が出ていました。）他の人の吟を聴き吟詠発表の面白さを実感されていきました。支部会員の方々とも、楽しい時間を過ごしておられました。また発表開始前の式典ではこの一年間の昇段者・昇格者の免状授与式を行い、いまだ入会されていない方々の目標設定の検討材料に成ればと思ひ実施していま

す。ゆくゆくは「スタッフ」の方々にも詩吟の参加を促しながら吟詠の楽しさを知ってもらいたいと思ひます。

「令和の新時代を迎えて」
事務局長 中村 尚瑛

時の移ろいは余りにも速く、事務局長を拝命して既に三年の月日が流れようとしている。会長先生始め各教室の先生方のご協力のお蔭を持ち大過なく三年の職務を全う出来たと感謝している現在です。日々の雑務に忙殺される昨今ではありますが、詩吟と共に健康で過ごしている今を幸せと感じています。

しかしながら、新しい人材の育成を早急になさねば次へと繋がらない事をひしと感じてもおります。今現在の事務局員で動ける人は私を含め僅か三名です。各支部の中で車の移動やパソコン操作の可能な方を是非とも推薦頂きたく思ひます。講師先生を通じて私までお知らせ頂ければ嬉しく思ひます。新しい令和の時代を迎え、新しい人材の登用をし、新しい風をどんどん吹き込んで頂きたく思ひます。過去の学びは宝です。五十五年の春秋を尊重しつつも、新しい華洲会へと飛躍したいものです。

毎回「詩吟教室会」として参加された方々と共に一緒に声出ししながら声出しを重点にし「詩吟」を披露しながら皆さんに楽しんでもらっています。

会員の要望に応えたい
女性部 吉田 泉豊

先々代会長を師として、うん十年前前に入会時は婦人部として何人もの部長先生の下で色々とお手伝いさせて頂きました。あの頃は婦人部員でしたが何時の頃からか女性部長と言われるようになり政安副会長の後を継ぎ何も出来ない私が皆様に助けられここ何年か女性部長を務めさせて頂いています。

今年企画部と協賛で宮崎東明先生の吟で作られている高槻の摂津峡、山水館にて中谷将鳳先生、ご指導のもと関隆盛の吟詠歌謡を教えて頂きました。参加された皆様も楽しく熱心に受け午後にはカラオケ、温泉と、とても有意義な一日でした。この吟詠歌謡がどこかで聴ける機会があれば嬉しく思ひます。

会員の皆様何か女性部に必要がありましたら、是非連絡下さい。

華洲未来塾に参加を
教養指導部 高橋 箏瑛

今年度も、「華洲未来塾」を年四回開催致しました。本部研修会の復講を、第一回に俳句の新譜、第二回新体詩を行い、後半では実技指導の時間として進めて来ました。

第三回、四回は昇格試験課題詩を中心に研修致しました。この「華洲未来塾」が開始されて四年、参加者は年々減少しております。企画や場所参加費など要因はあると思ひます。皆様の求めている事が何かを掴めていない状況ですが、新譜の新体詩・律詩の復講も行いたいと思ひます。今後もご意見ご協力を頂きますようお願い致します。

広報部員募集中
広報部 山下 心鼓

広報部誌「華」発行に関わる会員全員のご協力体制への実行に努力しております。

①「会員の広場」の活用
「青年部」の活躍紹介
②今年度の各部長方の活動状況
③今年度の活躍の方の紹介
④華洲会全体の活動、方針等を具体的に紹介していくこと等をめざして

既発行72号5月31日臨時73号12月16日発行予定、令和2年2月74号編成中

広報部の今後としては広報部員の充実次世代の方が主に編集、取材に携わることが必要です。新聞雑誌等現役時代にご経験のある方は是非とも広報部において下さい。お待ちしています。

広報部員募集中
広報部 山下 心鼓

Casa Blanca

青年部のページ

☆毎年恒例クリスマスイベント開催☆

12月22日(日)、西宮市のじゅとう屋さんで、青年部主催のクリスマススイベントが行われました。

詩吟を通じて親しくなった仲間同士、クリスマスを楽しみながらご当地ならではの演し物に刺激をもらった一日となりました。

今回も、厄神太鼓の皆さんによる力強いパフォーマンス(もちろん、体験コー

ナーもありました!)、阿波踊りでは中村尚儒先生の軽



やかな足取りに一同感嘆の声、そしてあすなる腹話術会さんのほのぼのトーク、



みのる師匠の漫談(新ネタはカラス発声法でした笑)、友誼会派攝友会青年部さんも合吟で加勢いただき、そ



して極めつけは、大阪の絡

んで来るアイドルグループ”



「オバチャーン」が登場!!! パワフルなトークとエキゾチックなダンスでイベントの空気をまるごと呑み込み会場は興奮のるつぽに!大阪のおばちゃんのみんなを笑顔にするパワーをもっています!

思いつきり笑い楽しんだところで、フルートとトランペットの音色が会場をジャジーな雰囲気包み込み今年もサンタさんがちゃんと来てくれました♪プレゼントをもらい、会場の内外どの方も、楽しく温かい一日を過ごすことが出来ました。



☆青年部主催

勉強会開催☆

2月15日(土)、初の勉強会が開催されました。当会では、関西吟詩の中でも我々青年部層が増加していますが、安定的かつ継続的に吟詠活動を行っていくためにも、青年部間での連絡と将来にわたっての議論の場をもつことが課題になってきていました。

そこで、一度青年部で集まってざつくばらんに話す場を設けてみてはどうか!との山口先生の発案により、樟葉の大庫ビルサービスさん(ソレイユ支部の中野先生の会社です。とても立派な会場に一同驚いてばかりでした!)にお邪魔いたしました。そして、他会派の青年部の仲間にも呼びかけ、今回は翠川会・攝友会から、荒川瑞華さん、石本恍武さん、中川恍瑞さんに出席いただくことができました。中野先生の息子さんの手による心のこもったお弁当に舌鼓を打ちながら、自己紹介をしつつ、詩吟に出会ったきっかけなど思い思いに

語ってもらいました。小休憩の後は、いよいよ山口先生・奥山先生による熱血指導です。府連・吟剣対策をはじめ、発声・呼吸のコツなど、一句一句丁寧に御指南頂くことができました。



ひとしきり稽古で汗をかいたあとは、カラオケで皆好きな歌を披露し喉をクールダウン。今後も継続的に集まる機会を約して、16時半に解散しました。

初めてのことで試行錯誤しながらの開催となりましたが、他会派の仲間も良い刺激となったようです。青年部の未来に少し光明が差した勉強会となりました♪



新春錬成会 “華洲会創立55周年に向け盛り上げた”

今秋11月開催の華洲会創立55周年記念大会の成功に向けて、令和初の新春錬成会を1月26日大東市立市民会館キラリエホールで会員161名の会員の参加を得て開催した。

当日は午前10時からの開会に先立ち、この大会の司会・受付・音響・舞台などの裏方を担当する青年部・事務局が9時には集まり、大会委員長小寺竜鵬氏・運営委員長中村尚瑛氏・舞台総括責任者藤原克哉氏の指揮の下、会場設営に努めた。特に音響・映像の事前チェックはスムーズな舞台進行に欠かせず、また各支部の音源の違いがあることから、シナリオを基に入念な事前確認を行った。

この錬成会は平成29年から新春に実施しており、華洲会各支部が支部単位でそれぞれ趣向を凝らして、剣舞・詩舞を入れ込んだ歴史物の構成吟や、吟詠歌謡を織り込んだ地域を巡る構成など多彩な内容で、ホールのプロジェクトを使用し、見せる・聞かせる舞台を考案している。

大会は青年部司会の開会宣言に始まり、大会相談役深町華燐先生の開会の辞は、「華洲会を皆で育てて下さい」とご挨拶、大会委員長小寺竜鵬先生のご挨拶は、「11月には華洲会55周年記念大会があります。みんなで成功させましょう。また今日は錬成主体でしっかりと楽しみましょう」と述べられた。

引き続き支部単位の会員吟詠に入り、午後には山口華篤華洲会会長のご挨拶を頂戴し、進行時間予定通りに進み、大会相談役中谷将鳳先生の閉会の辞で「各支部のカラーが出ていて良かった。楽しむことが出来たのでは無いか。50周年に向けて協力をお願いしたい」とお話された。

その後参加者全員の集合写真撮影、懇親清遊会場へ移動。

懇親会では、カラオケ、大阪の「おぼちゃん」の扮装、「芸者さんの扮装物まね」などで盛り上がりました。先ずは「楽しむ」を実践した一日でありました。

広報部

写真で綴る錬成会
開会の辞 深町先生



学園支部



川西北支部



野崎観音支部



丸の内中央支部



焔吟支部



四条楠公支部



京阪樟葉支部



勢多支部



川西大和支部



豊友支部



多田東支部



樟の里支部



焔詠グループ&男山さくら

アゼリアで未来塾開催

令和2年1月31日
令和元年度第4回目の華洲未来塾講座が池田市内アゼリアホールで開催。

当日は、午前中開催の拡大正副常任理事会に引き続き、午後から開催され、園部奎雋先生の教養講座「同郷の漢詩人 松口月城」と中村尚儒副会長による師範代・準師範、昇格試験課題詩解説と、奥山紅雋副会長によるコンクール対策の個別指導が行われた。



松口月城先生の紹介では、園部先生が年表を用いた年次を追って詳細に解説された。月城先生は独学で基礎医学を勉強し、18歳で医師の免許を取得、19歳で開業、医療の傍ら漢詩、書道、南画など多彩な才能を發揮しました。特に吟詠漢詩家として、我が国の至宝であり、生涯一万余千首にも及ぶ漢詩を作り多くのの人々に感銘を与えました。地元那賀川町には松口月城記念館が建設されて

います。昇格課題詩解説では、中村先生は昇格試験100点満点合格を目指し、詳細な資料を作成し、吟法の詳細・漢詩の約束事などわかりやすく解説された。

【漢詩の広場】

令和元年秒秋

元韻 深町華燁

影冷落楓衣上翻

勝花晚艶座南軒

秒秋茅舍衰山色

碧落涼涼嶺上村

影冷やかに落楓衣上に翻る花に勝る晚艶南軒に座す秒秋茅舎山色衰え碧落涼涼嶺上の村

戦後述懐八月天 先韻

追懐歲月世情遷

劫後時回聽鳴蟬

暖衣包食都一夢

平和恒久仰昊天

追懐す歲月世情の遷劫後時は回り鳴蟬を聴く暖衣包食都(すべて)一夢平和恒久昊天を仰ぐ

令和元年度

華洲会前期昇段試験 (E31.4.30実施) 受験者

初段

奥屋益実

隅田恵子

山西寛

小尾博子

柳井登一

二 田中計久

野瀬幸

中山正子

中西光男

東山美恵

中西彰

五 常村一則

岡部幸子

六 仲元幹雄

七 片山節子

石崎照子

八 石崎正雄

九 坂本敏一

藤原忠尚

十 安達悦子

令和元年度 昇格者

師範代

甲斐五郎

中根達博

福田和美

平野りさ

五十樓俊次

丸の内中央

丸の内中央

丸の内中央

丸の内中央

丸の内中央

丸の内中央

丸の内中央

丸の内中央

丸の内中央

丸の内中央

丸の内中央

丸の内中央

丸の内中央

丸の内中央

丸の内中央

丸の内中央

丸の内中央

丸の内中央

丸の内中央

丸の内中央

丸の内中央

丸の内中央

丸の内中央

丸の内中央

丸の内中央

丸の内中央

丸の内中央

丸の内中央

丸の内中央

丸の内中央

丸の内中央

加川秀子 (雋詠京都)
※木村士郎 (京阪樟葉)
山脇浩二 (燁吟)
準師範
岩崎淳子 (丸の内中央)
※中野宜子 (弘宣)
堀香織 (川西大和)
※江崎一吉 (四条楠公)
※金子恭子 (多田東)

令和元年度後期 昇段者

十 遠藤 豪通 (尚豪) 多田東
九 山下 智之 (心鼓) 丸の内中央
上坂 彪 (彩彪) 川西大和
竹内 里志 (峰鼓) 丸の内中央
八 中川 美那子 (燁) 草冠に取る 燁吟

六 北岸 松男 (彩駿) 川西大和
五 木村 士郎 (燁) 京阪樟葉
橋本 眞三 (儒眞) 川西北
富田 英孝 (叡英) 多田東
福田 和美 (彩穂) 川西大和
四 大西 幸子 (幸攝) 雋詠寺川
角谷 成三 (叡成) 多田東
磯田 孝潤 鳳吟大江
小谷 茂雄 多田東
河田 一彦 多田東
福島 正己 多田東
竹田 和哉 多田東
幸 盛正 多田東
山内 春好 川西大和

秋月 俊也 (奎翁) 雋詠寺川
深谷 千賀 (紅賀) 雋詠寺川
三 平野 敏弘 京阪樟葉
東本 亨也 川西豊友
杉本 侑響子 雋詠寺川
中西 民夫 川西大和
荒川 一聡 雋詠寺川
二 筒井 清次郎 川西大和
鈴木 廣子 川西大和
松下 恵子 多田東
梶尾 君子 弘宣
鈴木 マリ子 弘宣
初 加納 恵介 雋詠寺川

【前73号・訂正】
華洲会競吟 師範代の部
3位 成田研一 (多田東)
関吟全国新人中間層大会 和歌の部
8位 奥野君子 (多田東)

令和2年度 昇段課題詩 華洲会

Table with columns: 区分, 番号, 新教本等, 旧教本, 吟題, 作者. It lists various poetry topics and authors for the competition.